

現場主義トリオ

「3人ならバランス判断」

きも客観的な判断ができない。三人が一番バランスが取れている」。

それまでは、登録した商品しかシミュレーションできず、新商品が発売されても、似合うかどうかをすぐに確かめられなかったという。

起業から五年以上。取引先企業も増加しているが、金春は「結婚して子供を育てていくには、自分が生まれ育った、自然と歴史文化が豊かな関西がふさわしい」と思った。林も「関西から東京に出て、想像を絶する満員電車がきつかった。オフィスに着くころにはくたくたで、仕事の能率が下がってしまう」と、東京での勤務経験も踏まえて話す。

もちろん、東京にオフィスを置けば、事務所の賃料も人件費もコストが高つく。「東京の会社との取引も多いが、新幹線に乗れば十分に商談に行ける」（金春）と採算性も考えてのことだ。

IT業界はまだ生まれて間もない若い産業でもある。そんな中、大手のシステム開発会社が大手企業だけに提供してきた質の高いシステム開発を企業の大小を問わず、より安価に行うことが業界を活性化させると信じている。

「ホリエモンさんのことは、この業界の先駆者として尊敬できるのでウオッチングしています。でも、僕たちはお金もうけだけでなく、業界に新しい風を吹き込んでシステム開発の質を向上することが使命だと考えています。三人はともにそう話した。

三人が出会った場所は東京。ただ、起業では「住み心

金春が大学時代に世話になったコンサルタント会社社長に相談したところ、起業を勧められ、西松と林の二人に持ちかけたという。

R3はこの夏、「メガネの三城」の店頭で行われるメガネ装着シミュレーションシステムの開発に携わった。客の顔にどのメガネが似合うかを調べるために、コンピュータ上でメガネを顔の画像に合

しかし、三人は「システム開発の現場は研究室ではないか」と悩む。NTTデータのような分業化が進む大企業に所属している限り、受注した顧客の顔が見えないという現実に突き当たった。

研究科を修了した金春と西松、京都大学大学院工学研究科を修了した林はそれぞれ、平成十一年にNTTデータ（東京）に入社。大企業のシステム開発を受注する仕事で、開発の一端を担ったり、サポートを行うなどしてきた。

システム開発会社経営

勝算アリ！

隣の起業家たち

⑥

好きな言葉は？ 「好きこそものの上手なれ」。今の仕事もコンピューターが好きだというのが原点です。好きなことが一番能力を発揮できると思う。（金春）

時間があれば？ もうすぐ、子供が生まれるので名前を考えたい。子供が大きくなったときに、「こういう思いで、つけたんだよ」と語ってあげたい。（西松）

得意なスポーツは？ 学生時代に自転車で京都―仙台を走ったことがある。近い将来、家族と自転車で遠出をしたい。（林）



ミーティングする西松さんと林さん、金春さん（左から） 〓大阪府中央区

（石井奈緒美）